



平成20年9月 マンスリー レポート

集計企業数 60 社

売上高・前年同月比

	全 店			既 存 店	
	売上高	構成比(前月)	前年同月比(前月)	売上高	前年同月比(前月)
総 額	40,026,860 万円	100.0%	104.1%(103.8%)	37,745,839 万円	99.7%(100.4%)
食 料 品	33,418,287 万円	83.5%(82.6%)	104.4%(104.5%)	31,549,656 万円	100.8%(101.6%)
農 産	4,990,716 万円	12.5%(11.8%)	103.4%(99.6%)	4,732,499 万円	99.8%(96.9%)
水 産	3,380,467 万円	8.4%(8.3%)	100.8%(101.4%)	3,224,682 万円	97.4%(99.2%)
畜 産	3,842,600 万円	9.6%(9.2%)	109.2%(110.6%)	3,642,256 万円	105.2%(106.5%)
惣 菜	3,333,566 万円	8.3%(8.7%)	104.6%(106.1%)	3,124,019 万円	100.3%(102.7%)
日配食品	7,697,415 万円	19.2%(18.1%)	103.6%(104.0%)	7,233,891 万円	99.9%(100.8%)
加工食品	10,173,525 万円	25.4%(26.5%)	105.1%(105.7%)	9,592,309 万円	101.6%(103.1%)
生活関連	2,913,440 万円	7.3%(6.9%)	100.0%(99.0%)	2,786,107 万円	97.3%(97.1%)
衣 料 品	1,433,006 万円	3.6%(3.6%)	102.4%(98.1%)	1,338,976 万円	96.9%(94.7%)
そ の 他	2,262,127 万円	5.7%(6.9%)	106.0%(103.2%)	2,071,100 万円	89.5%(93.5%)

数 値

全店総売上高	40,026,860 万円	店 舗 数	3,705 店舗
総売場面積	6,395,130.4 m ²	総従業員数	190,441 人

店舗平均月商	9,994.2 万円	平均客単価	1,985.0 円
月間m ² 売上(前月)	6.3 万円(6.9 万円)	平均店舗面積	1,596.8 m ²
月間坪売上(前月)	20.7 万円(22.9 万円)	パート比率(前月)	76.3%(76.1%)

注) 総従業員数...パート・アルバイト数は、8時間換算しています

全体概況

- ・ 前年よりも土日が各1回少なく、また天候不順に見舞われる地域も多く、売上減の一因となった
- ・ 生活防衛意識により値ごろな商品への需要が続き、買い方もシビアさが顕著となった
- ・ 残暑が厳しくなかったため、昨年好調であった飲料・アイスクリームなどの夏物商材が不振であった。気温の低下から、秋物商品を早期展開したところは、好調であった
- ・ 事故米問題による焼酎、米菓子の影響、中国粉ミルク問題に端を発した関連商品への波及など、食品に対する安全、安心を脅かす問題が多発し、消費が上向き心配が感じられない

商品動向

農産

- ・ 野菜については、前半まではサラダ系が良い動向であったが、後半は気温低下と共に土物、根菜、菌茸類などが好調に推移した
- ・ 果物については、ダイエット対策としてバナナが紹介されたことにより、バナナの売上が大幅に伸び、品切れなどで一時、供給困難となった。その影響でバナナ1点買いをされるお客様も多く、他の季節果実が平年よりも落ち込んだ

水産

- ・ まぐろ、魚卵、うなぎは、相場高騰により値ごろ感が出せず苦戦した。特にうなぎは国産が大幅減で売上に大きな影響がでた
- ・ 旬の生さんまは好調であったが、相場が下がり単価もダウン。秋鮭は豊漁による入荷安定で好調に推移した
- ・ 彼岸を過ぎてから寒くなり、生たら、つみれ団子などの鍋物商材が動きが良くなった

畜産

- ・ 内食回帰の需要を最も受けていると見れるのが精肉部門。畜種によるバラツキはあるものの、総じて伸張している
- ・ 牛肉は、生活防衛意識の高まりで苦戦気味。特に和牛の高級部位の動きが悪く、ホルスの安価商品に集中した
- ・ 豚肉と鶏肉は、相場も高値安定で推移したが、挽肉も含め、汎用性が高い品群は支持率も高く好調であった
- ・ 運動会需要により、お弁当用のハンバーグ、ミートボール、ウインナーが好調に推移した

惣菜

- ・ フライドは、カキフライ、さんまの竜田揚げなど中心に、秋商材が好調であったが、さんま寿司など寿司関連は不振であった
- ・ 運動会や行楽シーズンで、おにぎりや旬の食材を使った弁当が好調に推移し、松茸ごはんも良い動きとなった

日配・加工食品

- ・ 日配食品は、和日配は好調で洋日配は低迷した。気温の低下によりおでん材料、鍋物材料、麺類が好調も、牛乳、飲料、デザート、ヨーグルトは低調。野菜相場安の影響もあり、漬物も落ち込んだ
- ・ 内食傾向の伸張がみられるなか、冷凍食品部門の不振が目立つ
- ・ 加工食品においては、値上げ傾向が続き、点単価の上昇が前年度を上回る要因となった。気温低下から例年動きの良い飲料、つゆ類は低調。対してカレー、シチュー類、菓子類は好調に動いた
- ・ 生活防衛意識による内食需要の高まりで、米とご飯まわり、調味料、水産乾物、即席麺、油が好調であった
- ・ 新米については、例年同様好調に推移するも、高単価商品は点数ダウン

その他

～お彼岸商戦について～

- ・ 彼岸の入りが週末であったが、天候不順により出足から不調となった。買上点数は前年並みであったが、大型サイズの刺身や寿司、オードブルや高額の商品は動きが鈍く買上単価は下落した
- ・ 花きは低価格商品は伸張。高額の商品は天候も影響してか動きが悪く苦戦
- ・ おはぎやお供えの団子、らくがんは地域差はあるが、ほぼ前年並みの状況。天ぷら盛合わせは伸張
- ・ 酒類は、天候不順や値上げによりビール、発泡酒は低調であったが、新ジャンル(第三のビール)、カップ酒は好調であった

～秋物商材の動向について～

- ・ 気温の冷え込みによる鍋需要の高まりで菌茸類が好調であった
- ・ 果物では、バナナ好調の影響を受け、梨、ぶどうは売上不振が目立った
- ・ 水産部門では、相場安のさんまが9月後半もペースが落ちず好調に点数を伸ばした。また、秋鮭についても好調に推移した
- ・ 惣菜部門では、カキフライ、さんまの竜田揚げなどの揚げ物や煮物が好調であった
- ・ おでん商材や中華まんについては、気温の低下、値上げによる単価アップにより売上は好調であった

以上